■NGOサンキューセミナー「薬剤耐性（AMR）対策アクションプランのその先に」

■2020年3月27日開催（日本リザルツ東京事務所）

■参加者

医療関係者、アカデミア、企業他

■内容

AMRの症状・現状はどのようなものなのか。講師は、海外の病院から日本に搬送されたが薬剤耐性のためにいくつかの抗菌薬が効かず、最終的に足を切断して助かった方、亡くなられた方の両症例を紹介した。「上気道感染に対する抗菌薬の使用は減っているが、注射用抗菌薬の使用が全体として増えている。また、海外型の耐性菌が日本に持ち込まれている状態」だという。

AMR対策として講師は、人々の知識向上、評価、国際的な対策といったキーワードを挙げた。講師によると、人々の知識向上を目指して色々なキャンペーンを打ってみたが結果は芳しくなく、風邪に抗生物質は効果的であるという間違った認識をしている人の割合は過去3年間変わっていない。一方、「AMR対策に必要な評価の仕組みを作ったことで、耐性菌出現、薬の使用量、感染症の診断に使われる血液培養の頻度といった数値を把握できるようになり、医療機関が、自らと他機関の抗菌薬の使用量を比較できるようになった。AMRは輸入されるのでお互い様であり、国際的な観点でAMR対策をすることは大切だ」。